

## 「見る」が勝ち：優れた視覚教材は学力を向上させる

～ビジュアル・シンキング・ストラトジー（VTS）は芸術的探求の領域を越え、学力アップの牽引役に～

フラン・スミス

生徒達は大きく投影された芸術作品のスライドを一心に見つめている。先生が「さあ、ここでは何が起きているでしょう？」と声をかけるまで、夢中で見入っている。生徒達は、描かれている人物、色、形、感情、物語、光、その他、何でも思いついた事についてコメントする。先生は、一つ一つの発言を言い換えつつ、発言の本意を探り続ける。「この絵のどこからそう思ったのかしら？」「他には何かある？」

こうしたやりとりは、エル・ヴェラノ小学校（カリフォルニア州ソノマ市）やハミルトン・センター校（ニューヨーク州北部）を始め、サンフランシスコ、サンアントニオ、マイアミの他、ビジュアル・シンキング・ストラトジー（VTS）と呼ばれる学習カリキュラムを取入れている小中学校<sup>1</sup>での光景である。物事を体系的に考える力（critical thinking）、言語/文章能力、そして学力の向上を目的としたこのカリキュラムは、今後ハーバード大学でも見られる様になるかもしれない。ハーバードに通う医学生の観察力向上、ひいてはより良い診断医の育成にVTSが貢献するのではないかという研究が進められているからだ。

同じ光景は、7月のとある月曜日のブロンクス美術館（ニューヨーク市）でも繰り広げられていた。「生徒」となるのは、全国から集まった日頃VTSに取り組んでいる40人の教師および美術館の教育普及担当者。行われているのは、上級者向けのトレーニングだ。彼らが見ているのはディエゴ・リベラによるフレスコの作品『Agrarian Leader Zapata』<sup>2</sup>。

部屋にただよう革命的な熱気は、スクリーンに投影された作品のモチーフによるものだけではない様だ。参加者は、VTSが生徒達だけでなく、自分自身をも変革する事になった様子を口にする。「魔法にでもかかったよう」と語るのは、2007年の秋期にハミルト

---

<sup>1</sup> アメリカの学制は、日本の6-3-3制と同じ所もあるが、5-3-4、6-2-4、4-4-4年制を採用している学区が多く、文中の「小学校」は日本でいう所の幼稚園年長から小学校5年、「中学校」は小学校6年から中学校2年を意味している。

ン校の1年生学級にVTSを取入れたアンドレイ・モートン・ミラー。「(VTSは)生徒達が自ら話し、観察し、推論をたて、その裏付けをしようとすることを促すワクワクする方法。そして、教師としての私自身にも大きな変化をもたらしてくれました。常に知識を提供する専門家から、よりファシリテーター的な役回りの自分がそこにいました。」

ひとつのカリキュラムでこれほどの実績。しかも、年にたった10回の授業(そのうちの1回は、美術館で行われる)だけでと聞けば、その成果は驚異的である。生徒達は、文化、時代、ジャンル、制作方法の異なる芸術作品を、45分間の授業時間内に2から3作品鑑賞する。子ども達は、まずは作品をよく見てから、見た事・見えた事について話合っていく。

「(VTSは)私達の自ら学ぶ力、または、他者と互いに学び合う力に働きかける事のできる、強力なツールです。」と、VTSの代表であるオレン・スロズバーグは言う。「見て、考えるという事を促しているからです。」

### 「正解」はない

生徒側の立場からすると、話し合いの場は、他のどの授業よりも自由で自然の流れにまかされている。生徒に求められているのは、単なる情報の授与ではなく、意味を見出す事。一方VTSは、周到で体系的なトレーニングを教師に求めている。どの学年の子ども達に、どの順番で、どのような作品を見せるか。あるいは教師の質問の仕方(動詞の使い方に至るまで)から、生徒の発言に対してどう応答すべきか、すべきではないかなど、VTSは明確に提示している。

クラス全体の集中力を保つため、教師は一人の生徒が話している作品部分がどこであるかを指で指しつつ明確にし、生徒の発言をよりの確な表現へと言い換え、そこに新しい語彙を取入れる。そして一つ一つの発言に対してその価値を認め理解しているという事を伝える。教師は異なる生徒の発言を関連づけ、議論をより深いものにすると同時に、生徒達が互いに学び合う事ができる場を創出する。その全ての行為において、個人的な価値判断(評価)を避け、中立的でなければならない。

VTSを学ぶ多くの教師達は、この中立である事(を習得するの)が最も難しいと言う。

「よく出来ました！」がおうむ返しのように発せられる現在の教育業界においては当然か

もしれない。しかし、この執拗なまでの中立性こそ、多くの教育関係者がVTSを評価している点でもある。おちこぼれ防止法のもと、テストの点数ばかりがものを言う時代においては、これもまた当然かもしれない。

「最近のカリキュラムでは、何でもかんでも正解か不正解かばかりが重用視され、思いきった発言をして間違ってしまう事をこわがる風潮があります」と話すのはエル・ヴェラノ小学校の校長マイテ・イテューリ氏。同校は、420人の在学生のうち約78%の生徒が英語を母国語としない。「このプログラムでは、正解も不正解も存在しません。普段は教室の後ろの方に静かに座っている生徒が発言する様になりました。新しい風が吹き込んできた様です。」

VTSは、認知心理学者のアビゲイル・ハウゼンの研究が発展し開発された学習法だ。ハウゼンは1980年代初頭に美的感覚の発達段階に関する論文を出版した後、子ども達は、本の中の文字が意味を形成する事を教わる様に、イメージ(画像)からも意味を見出す事を教えられなければならないという仮説を立てた。その後、美術館における教育普及を専門にするフィリップ・ヤノウィンと協働し、ビジュアルリテラシーを教えるのに適した作品を、子供の発達段階にあわせて用いた、体系的かつ探究心を促す事を主としたメソッドを開発した。この学習法は、例えば、『星月夜』を見せ、ゴッホに関する事実を並べたてて記憶させてきた、それまでの学校や美術館での美術教育のあり方に大きな一石を投じた。

「私達は、これまでに膨大な時間をさいて子ども達に向かって芸術にまつわる物語を語ってきました。それは実際、彼らを良い『聞き手』にする為のトレーニングだったので」と語るのは、イザベラ・スチュワート・ガードナー美術館(ボストン)で教育普及および公開講座を担当するマーガレット・パーシェナル。「それはまるで、大きな声で本を読みきかせるだけで、子ども達が自分で読む事を促していないのと同じ。」

確かに、それはドクター・スースから始め、子どもの成長にあわせて読む本を変えていくというより、いきなり、そしてずっとトルストイを読み聞かせている様なものかもしれない。子ども達の発達段階に見合っていない作品について、大人が語ることを止めたらどうなるのだろう。VTSの研究資料によると、彼らは彼らなりに理解可能な範囲で解釈し始めるという。「生徒達は、思いついた事を行き当たりばったりで口にする鑑賞者から、徐々に、より綿密で内省的に解釈を見出す鑑賞者へと成長。鑑賞の初心者特有の、

作品から個人的な物語を紡ぎだすことから始め、後には作家の意図を計ろうとしたり、作品の描かれ方から意味を見いだそうとするようになる。」

成長の証はそれだけではない。VTSを美術のカリキュラムに取入れた教師達は、生徒達がこの鑑賞方法で身につけた分析的な思考を他の教科にも応用していると話す。ハウゼンとヤノウィンは、VTSを全般的な学習能力向上の為の方法論として検証し始めた。ミネソタ州ブリオン市の学区における5年間にわたる調査研究の結果、VTSが討論の場や作文、さらには他の教科にも応用可能な体系的思考を発達させる事をつき止めた。VTS被験クラスだった8年生<sup>2</sup>の学力検査<sup>3</sup>における成績(1998年)は、(VTS導入以前の)前年度より23ポイントも飛躍的にアップした。州の平均スコアよりも2.5倍高いという結果をたたき出したと報告している。

### 少しの努力で大きな成果

別の学区(マイアミ・デードカウンティ)における独自評価でも類似の結果が報告されている。3年間のプログラムを経験した生徒達は、VTSを経験していない別のグループに比べ、ビジュアルリテラシーにおいて著しい向上率を示し、この発達が読解力と算数の成績向上と強く関係していると言う。さらには、同プログラムが、協力する事、他者への尊重、独断的でなく容認する物の見方を促進しているとも記している。2005年の報告では、VTSが英語力の充分ではない生徒達の語彙力を向上し、ライティング(作文)の力を高めるのに効果的であったともしている。

当初小学3年生から5年生を対象に始められたVTSのプログラムは、その対象を広げ、今や幼稚園から小中学生全般に行われている。ハウゼンとヤノウィンは、幼稚園就学前の児童および高校生向けのカリキュラム開発にも着手している。国語と算数を重用視するあまり、芸術教育の時間が削られていく昨今の傾向の中、VTSの影響力は年々拡大し、今年は約8万人の生徒達がVTSの授業に参加する。

最近定年退職を迎えたソノマバリー統合学区(カリフォルニア州ソノマ市)の最高責任者だったバーバラ・ヤングは「最小のコミットメント(関わり)が驚くべき効果をもたらす」と表現する。

---

<sup>2</sup> 日本の中学2年生

<sup>3</sup> 州が実施

この学区にあるエル・ヴェラノ校では、在籍する幼稚園児から小学5年生までにVTSを試験的に実施しており、2009年までには小学校の全学年に拡大して展開する計画だ。同校の試みに関する信頼性のあるデータが出て来るのは2年先になるが、校長のマイテ・イテューリ曰く、VTSを経験した前と後では、生徒の筆記テストにおいて言葉の使い方と文字の量が飛躍的に伸びている。VTSが向上させるのは生徒達的能力だけではない様で、「今や教師達も探求する姿勢を身につけている」とイテューリ氏は言う。「そして、教師達はVTSで学んだことを他の教科を指導する際にも取入れている。」

但し、イテューリ氏にとって、VTSのもたらす最大の効能は学力テストの点数アップではない。エル・ヴェラノ校は、ワインで有名なカリフォルニアの華やかさの影で、低所得者層の子供達が多く通う学校である。優れた芸術作品が人々を元気付ける事が出来る様に、VTSは様々な問題を抱えている同校の意気を上げる事につながったと、イテューリ氏は語る。「VTSは、自信とコミュニティ（人々のつながり）を育てます。言語、コミュニケーションそして探求する力を強くします。」そして「(VTSでは)みんなが公平です。先生は生徒から発せられる全ての回答を受け入れ、称賛します。誰もが勝者になれるのです。」